

NO.283

2025年8月26日発行

精神障害者の家族の会の機関誌

KSKR

だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

— 目 次 —

◆ 2025年度(令和7年度)活動の 始動に際してのご挨拶	1P
◆ 2025年(令和7年)度 定期総会	1～2P
◆ 2025年(令和7年)度第一回代表者会議	2～3P
◆ 障害年金不支給増加について	3～4P
◆ 工藤悦子基金	4P
◆ 大阪府福祉基金地域福祉振興助成金 民間団体提案型事業について報告	5P
◆ 家族の思い	6P
◆ PSWのミニ知識	7P
◆ 賛助会費寄附報告・編集後記	8P

2025年度(令和7年度)活動の始動に際してのご挨拶

会長 大野 素子

世界は障害の有無、性別などの違いを超えて互いに尊重しあいだれもが自分らしく生きられる「共生社会」を掲げています。ところが、わたくしたち家族はいまだに社会から孤立して「親亡き後」の心配の重圧で生きていかなければならない日本独特の「この国に生まれたるの不幸」(私宅監置を認めた1900年「精神病者看護法」を精神科医 呉秀三が憂いた言葉)の風潮のなかで暮らしています。100年以上も引きずっている日本社会を変えていくためには、わたくしたちのささやかなつづきや声を大切に束ねていくことではないでしょうか。

とかく家族会の高齢化が心配されますが、年代を問わず一人ひとりが声を上げることができる集いを元気にしてゆきたいと思います。一人からでも二人からでも家族会活動はできます。ぜひ皆様の声を届けてください。

2025年(令和7年)度 定期総会のご報告

5月31日(土) 10時～ 大阪市教育会館東館305号室 会場とzoomを併用

議決権総数33 会場出席者8 zoom出席者6 委任状13 参加合計27名、過半数により総会は成立
司会：三好 忍副会長 開会の辞：大野会長挨拶 議長：堀居 努副会長 議事録：東 泰敬理事

■議案審議

第1号議案	2024年度	活動・事業報告	第4号議案	2025年度	活動・事業計画
第2号議案	2024年度	会計決算報告	第5号議案	2025年度	会計収支予算案
第3号議案	2024年度	会計監査報告	第6号議案	2025年度	新役員体制(案)

新役員紹介

理 事	大野 素子	会長	(大阪市 はあぶ東住吉)
理 事	山本 美世子	副会長	(羽曳野・藤井寺 まつしの家族会)
理 事	堀居 努	副会長	(箕面市 笑顔の会)
理 事	三好 忍	副会長	(賛助会員)
理 事	東 泰敬		(泉佐野市三枝会家族会)
理 事	美馬 裕美		(賛助会員)
理 事	松阪 正治		(賛助会員)



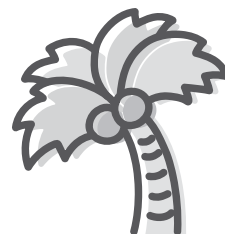
(次ページに続く)

相談役 倉町 公之 (高槻明星会)
 電話相談アドバイザー 弓良 昌子 (大阪府精神保健福祉士協会)
 監 事 萩原 敦子 (大阪府精神保健福祉士協会)

退任 理 事 峯苔 絹子

本年度の定期総会も、昨年同様、対面とzoom併用方式で開催しました。本年度も大阪府・大阪市から以下の来賓をお招きし各来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。

- ・大阪府福祉部 障がい福祉室 自立支援課 社会参加支援グループ
課長補佐 今仲昭喜様
- ・大阪府こころの健康総合センター 事業推進課 課長 平井由香様
- ・大阪市福祉局 障がい施策部 障がい福祉課 課長代理 森 好史様
- ・大阪市こころの健康センター 精神保健医療担当課長 野田理一郎様



議案はすべて承認され、定期総会は成功裡に終了しました。

だいかれんは公益社団法人として、財政的な問題や高齢化など多くの問題を抱えております。一方で、「家族会に参加して良かった」というお声もたくさんいただいております。今後もより良い組織となるように皆様とともに歩んでいきたいと思っております。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。
 (文責 副会長 堀居 努)

2025年(令和7年)度 第一回代表者会議

- 日 時 2025年5月31日(土) 13:00～15:00
 ■会議方式 会場とzoomを併用
 ■会 場 大阪市教育会館東館305号室
 ■出席者 家族会代表 会場参加8名、zoom参加6名 計14名

午前中の総会に引き続き、午後から代表者会議を実施しました。本年度は以下の内容で進行了しました。

- 議題1 傷害保険「わたしのお守り 総合保障制度」について
 議題2 基金活用による令和7年度活動報告
 議題3 家族会運営の現状と今後に向けて

■議題1 傷害保険「わたしのお守り 総合保障制度」について

「年齢条件に関係なく」、「障害の有無や種類・程度に関係なく」、「過去・現在の症病歴に関係なく」、加入ができて、補償が受けられる「わたしのお守り 総合保障制度」の説明会を実施しました。この保険は、一般社団法人全国地域生活支援機構(JLSA)が保険契約団体となり大家連会員がJLSAの個人会員として保険契約をします。詳細は、だいかれん事務所に問い合わせいただくか、以下のQRコードからご確認ください。

補償内容編

補償内容の概要をご説明する動画です。
 詳細はパンフレットをご参照下さい。

<https://youtu.be/TMvRNr1IF4>



■議題2 基金活用による令和7年度活動について

- 「公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団」が公募していた「工藤悦子基金」に、大家連が「精神障害者を抱える家族の実態調査」のテーマで応募し採択されました。大家連会員全員を対象にア
 (次ページに続く)

ンケート調査（桃山学院栄教授が委員長）を実施します。アンケート配布予定は9月です。詳細は4頁を参照願います。

●「大阪府福祉基金地域福祉振興助成金」に応募し採択されました。「きょうだい、配偶者・パートナー、子の集いと学習」の場を創設する事業に取り組みます。従来の地域家族会では繋がらない家族（特に配偶者・パートナー、きょうだい子ども）に向けて、精神障害についての学習、交流の場を創設します。また、ホームページ、SNS等のインターネットでの情報発信を強化します。詳細は5頁を参照願います。

■議題3 家族会運営の現状と今後に向けて

今年度は、より多くの家族会の状況を共有し、アイデアを出し合うためグループワーク形式で進めました。会場は3グループに分かれ、オンラインは1グループで行いました。

●家族会で工夫していること

各家族会の現状、会員数減少、新規会員（特に若い世代）加入がないことは各家族会の共通の悩みです。各家族会ごと対策をされており、ホームページを立ち上げる（インターネットでの情報発信は若い世代へは効果的）、会費の値下げなどを実施。

また、定例会を工夫をされている会が多く、お食事会を開催する、お弁当を出す、落語会、バーベキュー等の楽しい催しを増やされているようです。家族会で助成金を受けカフェで定例会を開催されている会もありました。

●大家連にのぞむこと

- ・高校教育の場だけでなく、小学・中学からの教育を始められるように行政に働きかけをして欲しい。
- ・病院内虐待についても向き合ってほしい。
- ・総会以外にも年にもう一回集まる場所を開催して欲しい。

●会長 全体の振り返りとして

近年、各家族会にとって、だいかれんは遠い存在となっていました。圏域交流会の開催などを通じて、皆さんと近い距離で触れ合うことが改めて大切だと感じました。今後も各家族会が活性化できるよう、ますます頑張っていきたいと思います。

（文責 副会長 堀居 努）

＊みんなねっと 2025年7月号

社会保険労務士 白石美佐子 「障害年金不支給増加について」から抜粋

～障害年金不支給倍増・審査方法の改正か 改悪か？～

共同通信社が2023年と2024年で計2千件超（5人の社労士）の新規申請を集計した結果、精神・発達障害では2024年の不支給割合が2023年比で2倍に増えているとのことです。

障害年金の申請をするための書類をそろえて申請したにも関わらず、2024年（令和6年）に入ってからカルテ開示や医師照会が突然増えたとのこと。このカルテ開示や医師照会などが増加するとともに、比例するかのように等級落ちや不支給率も上がっていることなど、それまでの審査とは違った傾向であると肌で感じ、現場でしか感じ取れない違和感を覚えた白石美佐子社労士は共同通信の記者と相談し、全国の社労士5名でデータを集計されました。その後、3月に不支給率の増加の記事が出た後に、内部職員による内部文書などが共同通信のもとへ寄せられたことで、さまざまなことが明らかになりました。

<年金機構担当者の姿勢は？>

2024年1月から、人事異動で年金機構トップの理事長が変わったことで、書類の要件を厳格化、職員が判定医に低い等級や「等級非該当」と提案するケースが増えたとしています。医師でもない職員が、支給、不支給を決めている事実、そして認定医はたったの数分程度しか審査時間を与えられていないこと等を考えると、公平な審査は行われていない可能性も高いと言わざるを得ません。

<障害福祉サービスへの無理解>

また、新聞記事には触れてなかった部分ですが「等級落ち」が多いことを白石社労士は指摘されてい

（次ページに続く）

まず、就労は全くできていないにも関わらず「デイケア」「就労移行支援所」「職業訓練」などに行っていることを診断書に記載されてしまうと2級レベルの内容の診断書であっても3級落ちになる傾向があります。また、独居で福祉サービスの利用がない場合や、厚生年金加入中で長期休職中である方などは、精神の障害にかかる等級判定ガイドラインの障害等級の目安表に当てはめ、2級であっても3級落ちになっていることが多くあります。等級目安表で2級に該当していたとしても、診断書に「可能である」「できる」という文言が入っていると不支給にされることもあり、もはや、障害年金を受給できる、できないは、医師が診断書に記載する表現方法、テクニックにも関わるものであると、現在の審査のあり方を変えるべきであると白石社労士は強く感じられています。将来、社会と関わり社会へ貢献できるようになりたいと思う人たちが、障害年金の等級落ちになるとしたら社会復帰を妨げてしまうことになり、障害年金が生活の命綱であり、生活の柱である人たちにとって、安心して暮らせる社会にするためにはどうしたらよいのかを、これをきっかけとして、当事者、家族、支援者等、多くの人達の意見を基に深く考える時期が来ているのではないのでしょうか。

＜社会の不合理へ声を上げよう＞

社会の不合理に対し、純粋に怒り、そして声を上げていくこと、個人の自由・独立が保障される自由な社会を実現するためには、些細なことでも「気づくこと」から始まります。そして、その気づきに対して、当事者や家族団体が耳を傾け少しでも改善へと働きかけていく小さな積み重ねが必要です。

厚生労働省は年金制度改正に向けて多くの意見を集めています。未来が暮らしよい温かい社会であるために一人でも多くの声が必要だと思います。

「国民の皆様の声」募集フォーム <https://www.mhlw.go.jp/form/pub/mhlw01/getmail>

※上記記事は「月刊みんなねっと」7月号p 6～9の記事の表現を転載させて頂いております。

(文責 副会長 堀居 努)

工藤悦子基金

だいかれん「家族会員の生活実態と意識調査」を実施します

公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団が公募する「工藤悦子基金」に、「家族会員の生活実態と意識調査」を実施することで応募し採択されました。以下に調査の概要等を記載致します。

【調査の目的】

このアンケート調査は、精神障害をもつ方を支えるご家族の「暮らしの状況」や、心の中で感じていることを、日々の悩み、気持ちについて、ご意見をお聞きするものです。

集めた声をもとに「抱える困難」をグラフや数値データなどで分かりやすくまとめます。その資料をもとに社会への啓発につなげるとともに同じ立場の家族同士が互いにつながり、相談できるきっかけとなり家族会の活動が活発になるように役立てていきたいと考えています。また、行政や関係機関への政策提言の基礎資料としても活用していきます。

【調査実施(アンケート記入・回収)期間】

2025年9月1日～10月31日(予定)

【結果の公表】

2026年3月までに報告書を作成し公表



【お願い】

本調査では、だいかれん家族に回答いただくことで、だいかれん会員が抱える日々の悩み、気持ちを取り纏め、「抱える困難」を明確にしていくことで、精神障害を抱える当事者の困りごとをも明確にしていけるものと考えています。お忙しいとは思いますが、アンケート調査にご協力のほど、お願い致します。

(文責 副会長 堀居 努)

大阪府福祉基金地域福祉振興助成金 民間団体提案型事業について報告 「だいかれん“輪をひろげる”プロジェクト」活動開始について

申請理由

精神障害者の家族会は大阪府内に32か所あるが会員の大多数は親の立場である。夫・妻といった配偶者、兄弟姉妹（以下きょうだい）、子どもの立場である場合、家族会会員の多数を占める親とは立場の違いがあり、家族会例会に参加しても困りごとを話すことがためらわれたり受け止めてもらえないと感じることがあり、そのため、地域家族会にたどり着いてもつながらない、入会しても継続しないといった状況がある。

だいかれんはこういった問題意識から、親以外の立場の家族向けに平成29年度から配偶者・パートナーの交流会を、令和6年からきょうだいの交流会を開催している。

しかし参加者は少なくなかなか広がらない現状であるが、参加した方からは、どこにも相談できず話せる場もないので、きょうは思い切り話せ理解してもらってスッキリした。病気の相手に気をつかい家の中では音を立てないように歩いている。きょうは久しぶりに身体を動かしたい気分です。この近くを歩いてから帰ります等、気持ちの解放感のことばを聞きます。

このように従来の家族会ではつながりにくい家族を対象に学習と交流の場、開催情報を含めた情報発信の場、地域の精神障害者の支援者に家族支援についての情報を発信する場を設けたいとの思いから大阪府への助成金を申請しました。

3月25日内示通知受領

「だいかれん“輪をひろげる”プロジェクト」と銘うち活動開始。

このタイトルはプロジェクトが持続的に輪をひろげて大きくなり活動ができるようにとの願いからつけたものです。

進捗状況 それぞれの立場の講師をお招きして5回講演を開催することに決定

- 第1回 10月25日（土） 赤岩 綾氏（きょうだいの立場）
- 第2回 11月15日（土） 北野誠一氏（きょうだいの立場）
- 第3回 12月14日（日） 佐藤 純氏（支援者の立場）
- 第4回 1月17日（土） 平井登威氏（子どもの立場）
- 第5回 2月1日（日） 前田 直氏（配偶者・パートナーの立場）

会 場 大阪市教育会館東館 403+404号室
大阪府中央区法円坂1-1-38 TEL：06-6943-5021

開催周知の方法

- ・チラシは出来上がり次第関係機関に配布
- ・だいかれん“輪をひろげる”プロジェクトのHP作成中
- ・SNSでも発信予定。



想 い

精神障害者の家族としての活動のなか、思いばかりが強く出て空回りすることもあります。そんな時他のスタッフのアドバイス、励まし、専門家からの適切な助言を頂きながらスタッフ同士冷静になったり熱くなったりと前進しています。20時から22時までのzoomでのスタッフ打ち合わせの時は眠い目をこすりながら、一同建設的な意見を出し合いここまでこぎつけることができました。

ひとりで悩んでいる方も地域の支援者の方も会場に足を運んでみませんか。

（文責 副会長 三好 忍）

*** 家族の思い ***

ペンネーム アオゲラの声

<自分の人生を生きる家族へ>

娘50才代、統合失調症感情障害、非定型精神病、不安から幻聴体感などコントロール難しくなり入院しました。穏やかで静かです。随分精神的に安定して落ち着いています。

自宅でゆっくりすることと運動する課題をいただいただけののんびり生活です。「薬が効いてる感じがする」と希望の言葉が聞かれ、私は見守るころのゆとりができました。

30才で統合失調症感情障害と病名告知され、はじめて病気を調べる糸口がわかりました。それまでは、「しばらく様子をみさせてください」でした。3か月入院ですっかり回復したと思い込んでいました。その後通院をやめ服薬中断で再発です。その時の主治医から病名告知を受け「あわてず あせらず あきらめない」という言葉をいただきました。回復していったケースなどをお聞きし、やっと不安と混乱から少し解放されました。

でも娘は、大変な病気になってしまったと後悔と負の体験を抱えていました。そんな時、病院の家族会を紹介されました。誰にも話せなかったしんどさを語り「おんなじよ。よく頑張ってきましたね」と共感の言葉を家族の方からかけられ、ホッとしました。少しずつ重荷が軽くなりました。重荷は、自分の偏見から生まれていたことに気づきました。

親が頑張らないと娘の病気は治せないと思い込み、娘の気持ちなど考えずに対応し、会話を拒絶された辛さを経験しました。この時の出会いから「今の娘の気持ちを知る大切さ」に気づかされたのが大きなターニングポイントになりました。

当事者の語りなどは聞く機会があるけれど、家族の体験などは限られた場所だけでした。保健所の家族教室は、精神科医からのお話を中心でした。家族の体験はほとんどなく専門家にも伝わっていない事を感じました。家族の多くの相談や家族の語りなどから気づいてきたことなど伝えていかないと、私たち家族のとりまく環境は変わっていかないと痛感しました。風通しのいい関係の中で、孤立した家族も気づいていくと感じました。

一番身近な本人とのつながりの持ち方をベースにして、できる時にできることを試みていくことでした。一番の壁は、親子の関係で教え込もうという親子愛でした。家族はできることとできないことを抱えています。どう生きていきたいか本人の希望を実現するのは、周りの支援者との付き合いで失敗しながら学んでいくことでした。「ころばぬ先の杖を出す」親の愛は、大きな妨げになること等、家族と当事者の語りから気づかされました。親も自分の人生を楽しみながら生きていくことが一番でした。親子は相互に自立して生きていくという事です。どんな人も一人では生きていけない、支え支えられ生きていくことが自立であるという当たり前のことを長い年月かけ気づきました。



ひとりで悩んでいませんか？

心の病の患者さんを抱えている家族の方
ひとりで悩んでいないで…
あなたはもう
ひとりぼっちではありません！
同じ家族の立場で
電話相談員があなたの悩みを
お聞きします。



大家連 電話相談室

☎ 06-6941-5881

電話相談日（月・水～金）11:00～15:00

（祝日・お盆・年末年始は休みます）
（コロナ発生状況により変更あり）

PSW(精神保健福祉士)の 三二知識

精神科病院からの退院支援 ～地域移行支援制度

大阪精神保健福祉士協会 大垣 尚久

私は24年間の精神科病院の精神保健福祉士としての経験から、このコラムを書かせていただきたいと思います。

入院患者さんの多くは、入院当初の病状の悪化はあったと思われますが、それを認識することが難しく、「入院させられた」という心境で入院を続けている人が多いと感じています。その入院患者さんはこのまま入院を続けておきたいと思っている人は殆どいないでしょう。私は今まで多くの長期入院の精神障がい者の方々と関わり、話を聞く機会を持ってきましたが、最初は皆さん「ええわ」「ほっておいで」と自分に関心を持たれることに警戒心を持たれていました。それは、自身は病気を患ったせいで居場所がなくなってしまったと感じているためでした。

実際にそう感じて、自分の未来や将来について考えることを放棄されている方に対して、私は自分が望む未来を思い描くことは自由で、それには確かにその結果に対して自分自身の責任を負うことが求められますが、それを乗り越えることが大事で、弱い自分も認めてあげることが次につながるステップになるのではないかと、支援者の一人として「**支えながら伝える**」努力をしました。確かに、見立てが甘く、失敗する人もいましたし、取り組むこと自体へのストレスで病状が不安定になる人もいました。しかしそれ以上に、多くの方がその方々一人ひとりが『**入院という制限された生活ではなく、自由に生活したい**』と述べられ、これが『本音』なのではと感じました。

そこでその「**退院をしたい**」という本人の気持ちをどのように具体化していくのかという課題が立ち塞がりました。今まで述べたように、“病院の中のスタッフ”として本人と一緒に退院計画を考えてみたり、それを実現するために基本的には本人主体で考えてもらうが、現実検討を鑑み、時に厳しく指導することもありました。そのような様々な角度でアプローチしてきたつもりでしたが、それがある程度までは上手くいったとしても、その途中で「**本人が乗り越えなければならない問題**」や「**本人は避けたいが避けられない問題**」などが出てきた場合、私は支援者として一緒に考えながらも指摘や時に指導をせざるを得ない場合があります。そうすると患者さんは私に対して、全面的に味方ではなく、嫌なことをいう病院の職員となり、そもそも病院に入院することが嫌なのに『入院させられている』事実は病院も一役買っているのだらうと考えている場合があります、その病院から「退院させないために言っている（指導している）んだ」と思われてしまい、次第に退院支援が難しいものになってきていました。

そんな時に『**地域移行支援・地域定着支援**』という取り組みがなされるようになりました。『地域移行支援・地域定着支援』では今まで我々が病院のスタッフとして行っていた“**押し出す働きかけ**”に加え、地域の**ピアスタッフ**などと協力し“**引き出す働きかけ**”を使って、退院促進を図ろうという取り組みです。最初は私自身は、我々病院のソーシャルワーカーも一生懸命退院に向けた取り組みをして、一定程度の成果はあったものの、ある程度たつと、上記のような問題に遭遇しました。そのためその患者さんの心（とらえ方）の問題はそう簡単に解決できる問題ではないのではないかと思います。この取り組みに協力していました。

当初は患者さんの反応も薄かったように感じます。しかし、何年か関わっていくうちに、患者さんの気持ちや考え方、表情までもが変わっていったことに気が付きました。特にこの働きかけの中でよかったのではと思うところが“**ピア(当事者)スタッフの支援が大い**”のではないかと感じました。我々病院スタッフが共感と傾聴に依りて話を聞いても「どうせ俺はあんたらとは違う」といわれたことがありました。しかしそんな中ピアスタッフは**同じ病気や体験をしてきた仲間**として受け入れ、その言葉に心を傾けていく姿に、我々では太刀打ちできない“**絆**”のような結びつきを感じました。

この地域から「引き出す働きかけ」は「病院だけ」「地域だけ」では成り立たないと思います。その二つが両輪となり、患者さんの心に触れ、その思いに近づいていくという活動が、効果をもたらすきっかけになるのではないかと感じ、今後もこの活動が各病院で有意義な役割を果たしていくことを期待したいと思います。



2025年度の賛助会費・寄附報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。

賛助会費 (1口3千円/年)として

42人分		42口
------	--	-----

(寄附)

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

氏 名	地 域	寄 附
東大阪なごみ会	東 大 阪 市	22,000
西口診療所	阿 倍 野 区	10,000
(匿名)	堺 市	10,000
東布施野田クリニック	東 大 阪 市	10,000
(匿名)	高 槻 市	10,000
羽田信子	寝 屋 川 市	3,000
箕面神経サトリウム	箕 面 市	30,000
右城 望	福 島 区	6,000
青葉丘病院	大阪狭山市	30,000
やまもとクリニック	西 区	10,000
こころの相談室リーフ	東 淀 川 区	5,000
加藤昌宏	北 区	1,000
城阪敏明	豊 能 郡	10,000
東 泰敬	泉 佐 野 市	1,000
山本幸弘	住 吉 区	47,000
柏木美和子	八 尾 市	7,000
(匿名)	旭 区	30,000
大澤保夫	寝 屋 川 市	7,000
ひまわり家族会	泉 大 津 市	3,000

石田クリニック	寝 屋 川 市	10,000
平山久代	北 区	2,000
京谷クリニック	西 区	10,000
(匿名)	吹 田 市	50,000

(2025年3月1日～2025年7月31日)

【切手・はがきのご支援有難うございました。】

切手 1,132円分 はがき 2,330円分

(7月31日現在)

□□□ 編集後記 □□□

連日の猛暑、危険な暑さのニュースを耳に、しんどいなーと思いながら外出する。ウワーと叫びたくなる暑さ。息をするのも一瞬忘れ、吸うのかな？吐くのかな？吐かないと吸えないし自問自答。体温を超える暑さの空気。思わずハンカチを押し当てなんとか息をする。駅まで歩く間フラフラ。一歩踏み出す前に引っ込めればよかった。

帰宅すると、当事者に「どっこも行くな！無理すんな！」とどなられた。

(編集委員 M. K.)

80回目の終戦記念日を迎えるトシとなった。

前年に湖北の寒村に学童疎開の施策で転居しており1945年の大阪大空襲は免れたが、大阪市旭区の城北公園には空襲の被害者を埋め立てした千人塚が営まれている。在阪だったらこの地で眠っていたかもしれない。

広島長崎原爆慰霊は報道されるが、国内各地にはあまたの施設が残っていることだろう。

♪戦争を知らない子供たち・・・から戦争を知っている世代たち・・・が消えていく平和な時代が続いていって欲しい。

(編集委員 奥村 昭)



2025年度の共同募金配分金 54.1 万円が決定しましたのでお知らせします。

赤い羽根共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。

寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。

又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします。

編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 大野 素子

連絡先 〒540-0006 大阪府中央区法円坂1-1-18 4F

Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135

ホームページ daikaren.org だいかれん で検索もできます

振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

定 価 1部100円(大家連家族会費には購読料を含む)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

